

「心得」見直しに本腰を入れて臨む！

先日の生徒朝会で三浦生徒会長から話のあった「学校生活の心得」の見直しが、いよいよ本格的に始まります。明日の12日(火)には、自分たち大中学生にふさわしい心得とはどのようなものかを話しあう学級審議が、全ての学級で行われます。

学級審議を前に、先日の生徒朝会の後に、3つのことが全校生徒に問われました。

- あなたが考える「理想の大中学生」とは、どんな姿ですか。
- 集団生活を送る上で、大切なことは何ですか。
- 地域や社会から信頼されるために大切なことは何ですか。

この3つの質問には、とても深い意味があると考えています。特に、「理想の大中学生」つまり「目指す自分たちの姿」を意識しながら心得の見直しに着手するところは、この活動に対する生徒会の構えや覚悟につながります。目指す姿を見据え、その意識のもとで自分たちに真に必要な心得を考えることは、まさに本質を捉えた深い議論につながるところだからです。

さらに、「集団生活」や「地域・社会からの信頼」を念頭に見直しを行おうとする姿勢にも、この取組の意義を強く感じます。個人のわがままを通すことではなく、集団生活の在り方を考えながら議論することの大切さや、安易な自己満足ではなく、自分たちを支えてくれる大人からも納得してもらえるものを目指すことの大切さを、この質問が訴えているように感じます。

この質問は、生徒会担当の高尾先生が中心となって、「心得の見直し」の本質を見つめながら考えました。



今日の昼休みに、学級審議に向けた評議員会が行われました！

明日の学級審議が、大中学生の在り方を決める大事な1時間になります。実りある、真剣な議論となることを期待しています。大中学生にはそれをやり遂げるだけの覚悟と力があると信じています。

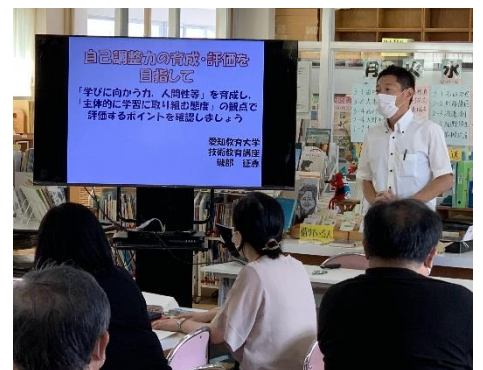
時代の先を進むために教職員も学ぶ！

生徒心得の見直しが大中学生にとっての挑戦であるように、大中の教職員にも挑戦していることがあります。

昨年度、新学習指導要領が全面実施となったことで、授業の評価の在り方も変わりました。昨年度の取組を振り返ったときに、評価についてより深く学ばなければならないという課題が浮かび上がりました。そのため、今年度は専門家を招いて学ぶことを計画し、先週の職員研修で全員が学びを深めました。

講師として、愛知教育大学の磯部征尊准教授と長岡市立東北中学校の保坂恵先生のお二人をお招きしました。磯部准教授は、大形中で力を入れて取り組んでいる「学級力」についての指導を何年も行ってくださっている、大変お世話になっている先生です。また、保坂先生は、附属長岡中学校に7年間勤務した実績があり、評価の在り方についてご自身も研究と実践を積み重ねている先生です。

生徒に「挑戦」を求める大中であれば、教職員自身も「挑戦」の姿勢をもたなければなりません。真剣に学ぶ大中学生に対して、生徒が学ぶ姿勢や学んで身に付けた力をより適切に評価できる力を、授業者一人一人が身に付けなければならないのは、考えてみれば当然のことです。今までの延長線上で、過去の考え方にしがみつきながら取り組むのではなく、新たなことに果敢に挑戦して、よりよいものを目指して最先端を学び続ける教職員集団でありたいと思っています。



熱く語ってくださった磯部准教授。さすが専門家。「なるほど」の連続でした！



自分たちの授業実践を持ち寄り、議論を交わしながら、評価についての学びを深めました！

大形中学校 校長室だより
夢・希望・未来

令和4年7月11日

第9号